

2001年8月3日

# ウツジ工科大学 (ポーランド)

## 日本語講座概要

川瀬佐恵

### 1. 機関概要

所属：ウツジ工科大学 国際交流センター

位置づけ：単位認定外の授業

開講：1984年10月～

講師：1984年～1996年まで現地採用日本人教師（一名）

1996年より青年海外協力隊の日本語教師が二年ごとに一名派遣される。

### 2. 沿革

既に10年以上の歴史を持つウツジ工科大学における日本語講座だが、未だ選択科目ではない講座開催という形をとっている。工科大学という理系大学での日本語講座開催は稀なケースといえるが、学習者の動機やニーズが様々であり、単位認定の語学授業ではないため、学生の定着率が極端に低い。単位認定科目にする要望は学生側からは強いが、大学側では工科大学の専門性と日本語が将来的にマッチする機会が少ないと見ており、大学での正式な単位認定科目として日本語は必然性がないと考えている。尚、昨年1999年秋学期より、日本語の授業の教室を貸与している国際工学部の学生のみ、希望者へ外国語選択科目としての単位認定が行われるようになった。

### 3. 学習状況 (2001年6月・冬学期終了時)

#### 【レベル】

①初級Ⅰ (一年目)	学生数 (38名)
②初級Ⅱ (二年目)	学生数 (20名)
③初級Ⅲ (三年目と四年目合同)	学生数 (20名)
④中級 (学習歴6～8年までの学習者対象)	学生数 (4名)

### 【学習時間】

週2回（一回90分）

年間約50回強の授業が行われる。

### 【使用教科書】

1996年までの前任者が『しんにほんごのきそ1・2』を使用していたため、基本的なシラバスは『みんなの日本語1』を参考にした学習シラバスを実施している。しかし、前任者から引き継いだ学生がほとんど日本語をやめてしまったため、今は自作プリントを使用して、頻度の高い文法や場面を考えた独自のシラバスで教授している。中級では『しんにほんごのきそ1・2』が終了しているため、自作または市販教材を用いて読解・会話・文法・聴解の問題を学習している。

#### 4. 学習者の動機とニーズ

一年生に対する初回のアンケート結果によると、一番大きい動機にあげられるのは、武道・日本のアニメに対する興味である。また、その他には明確な動機がなく、珍しい言語で単なる興味本位というのを動機としてあげる学生も多い。動機からして、ニーズも薄く、具体的なものがあまりない。将来、日本への留学を考えている学生もときどきいるが、まだまだ少数である。動機とニーズがあまりないのが原因と思われるが、開講時と年度末講座終了時では学生の増減が著しい。ここ3年間の状況では、初級I開講時100名以上の学生が集まるが、一年目終了時には30～35名の学生しか残らないという現状が続いている。どこで学習者の動機づけを促し、長期的な日本語学習へつなげられるかは、ここウッジ工科大学の日本語講座における大きな課題であるが、学生は専門での授業が忙しく、日本語までも継続して勉強できる学生は優秀な者に限られ、学生の定着度が低い点について、今後変化が起こることは難しいだろう。

#### 5. 活動の状況

2000年9月より日本語クラスの教室を借りている国際工学部と大阪大学大学院工学部との学術協定が結ばれ、交換留学が可能になった。2001年度10月より日本語クラス3年目の学生が1年間留学予定。

#### 6. 今後の課題

- ①様々な学生のニーズに答えるために、新たなシラバスの編成
- ②学生数の増加に伴う、教師陣と教室の不足改善